

中小企業景気動向調査

〔2014年7～9月期の景況/10～12月期の予想〕

【調査要項】

実施期間：2014年8月22日～9月5日

調査対象：県内の当金庫のお取引先 986社（下記参照）

調査方法：郵送および面談によるアンケート調査

分析方法：業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」（増加など）と答えた企業割合から「悪い」（減少など）と答えた企業割合を差し引いた値（DI:Diffusion Index）を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	427	134	67	31	155	39	38	95	986
回答数	384	120	62	29	139	34	36	90	894
回答率（%）	89.9	89.6	92.5	93.5	89.7	87.2	94.7	94.7	90.7



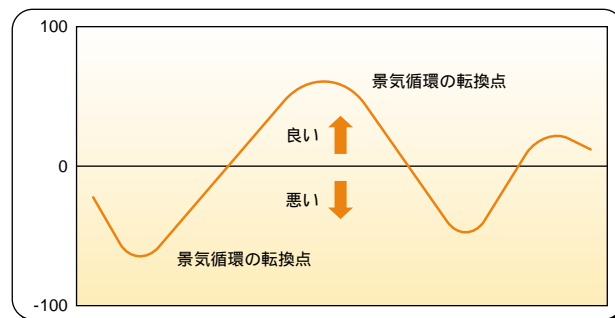
DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査（3カ月前）からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 \text{ (\%ポイント)}$$



結果概要

7～9月期の景況

三半期ぶりに景況感が改善。駆け込み需要の反動やわらく。

自動車部品製造業はDIがプラス域へ浮上。機械器具部品製造業の4割が「良い」の回答。

建設業のDIは7四半期連続のプラス。サービス業は個人向けサービスが大幅に改善。

10～12月期の予想

景況感は引き続き改善の見通し。DIはプラスへ。

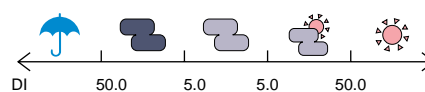
多くの業種で原材料高と人手不足を懸念。

業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	前期 (4～6月)	今期 (7～9月)	予想 (10～12月)	業種	前期 (4～6月)	今期 (7～9月)	予想 (10～12月)
全産業	8.3	2.1	0.7	印刷	36.3	63.6	27.3
製造業	4.3	2.6	1.6	食料品	22.2	23.1	15.4
非製造業	11.2	1.5	0.0	卸売業	19.5	4.2	0.0
自動車部品	6.8	6.5	0.9	小売業	31.7	20.9	25.4
機械器具部	21.0	18.2	13.1	飲食業	20.0	31.1	34.5
金属製品	26.3	0.0	17.1	建設業	1.5	4.4	11.7
窯業・土石	17.7	37.5	7.2	不動産業	2.9	5.9	6.1
木材・木製品	40.0	16.6	0.0	運輸業	16.1	11.2	5.9
繊維製品	4.2	27.3	9.1	サービス業	5.0	12.3	10.0

〔天気図の見方〕



業況判断

	前期	今期	予想	変化幅			
	[4~6月期]	[7~9月期]	[10~12月期]	前期	今期	今期	予想
全産業	8.3	2.1	0.7	6.2		2.8	
製造業	4.3	2.6	1.6	1.7		4.2	
非製造業	11.2	1.5	0.0	9.7		1.5	

(単位：%ポイント　　はマイナス)

〔全産業〕

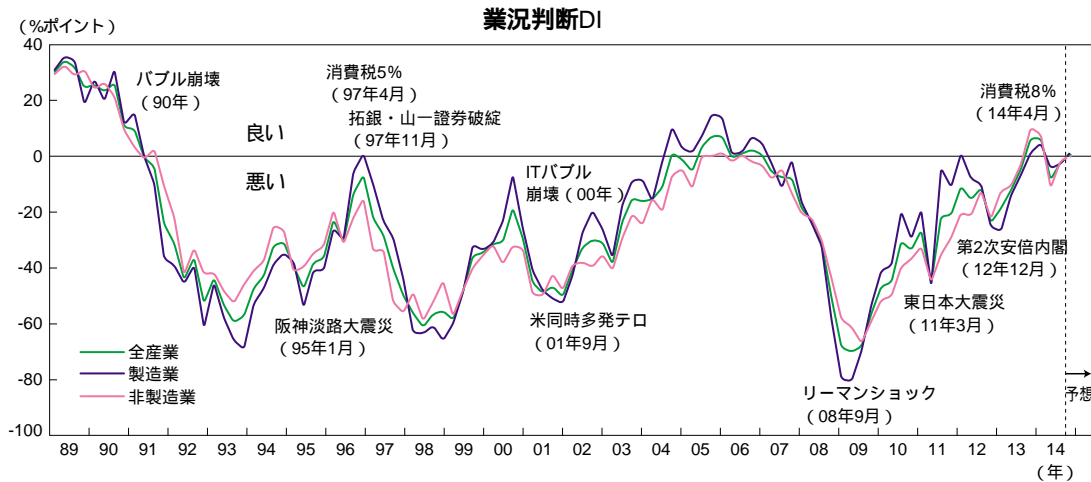
7～9月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス2.1となり、4～6月期（マイナス8.3）にくらべ6.2ポイント改善した。改善は3四半期ぶり。

10～12月期の**予想業況判断DI**は0.7と、2.8ポイントの改善を見込む。予想どおりならば、3四半期ぶりにプラスへ。

〔製造業〕

業況判断DIはマイナス2.6。4～6月期（マイナス4.3）にくらべ1.7ポイントの改善。2四半期ぶりの改善。消費増税にともなう駆け込み需要の反動が和らいでいる。

- ・ DIが改善したのは、自動車部品、金属製品、木材・木製品。悪化したのは、機械器具部品、窯業・土石、繊維製品、印刷、食料品。
- ・ 自動車部品は2四半期ぶりに改善し、プラス域に浮上。
- ・ 機械器具部品は悪化したものの、4四半期連続のプラスを維持。回答企業のおよそ4割が、景況を「良い」と回答。景気回復を実感している企業が比較的多いとみられる。国内外の機械需要の持ち直しが続いているのが背景。



を差し引いた値)はマイナス4.3〔減少〕。
2四半期連続の減益。

〔製造業〕

前年同期比売上額判断DIは11.5〔増加〕。

前年同期比収益判断DIは0.5〔増加〕。

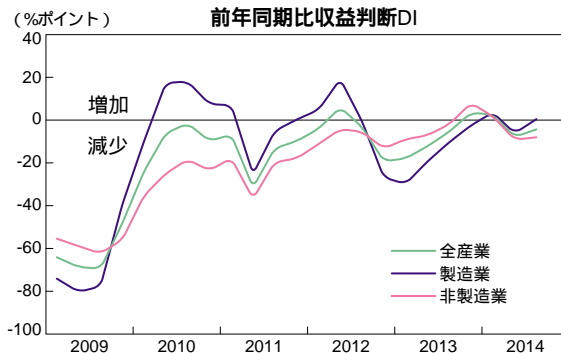
- 自動車部品と機械器具部品は増収増益に。

〔非製造業〕

前年同期比売上額判断DIは2.4〔増加〕。増収は6四半期連続。

前年同期比収益判断DIはマイナス8.0〔減少〕。

- 運輸業は増収増益。小売業、飲食業、不動産業、サービス業は減収減益。



		前年同期に比べて売上額	
		増加した業種	減少した業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品	窯業・土石 繊維製品 印刷 食料品	
	木材・木製品は変わらず		
非製造業	卸売業 建設業 運輸業	小売業 飲食業 不動産業 サービス業	

		前年同期に比べて収益	
		増加した業種	減少した業種
製造業	自動車部品 機械器具部品	金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品	
非製造業	運輸業	卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 サービス業	

販売価格・仕入価格

〔全産業〕

販売価格判断DI (販売価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値)は3.4〔上昇〕。

仕入価格判断DI (仕入価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値)は36.2〔上昇〕となった。

〔製造業〕

販売価格判断DIはマイナス2.1〔下落〕。2四半期ぶりに下落に転じた。

原材料仕入価格判断DIは32.6〔上昇〕。

〔非製造業〕

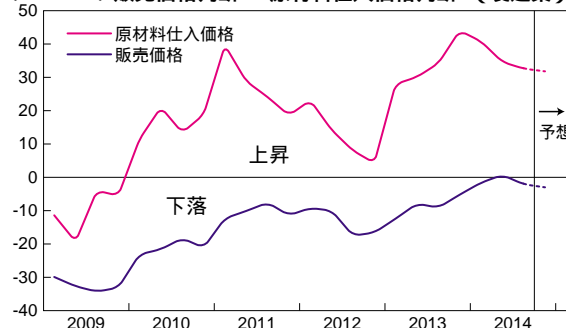
販売価格判断DIは7.6〔上昇〕。

- ・ 不動産業は3四半期ぶりに下落に転じた
が、不動産業以外の業種では販売価格
の上昇傾向が続いている。

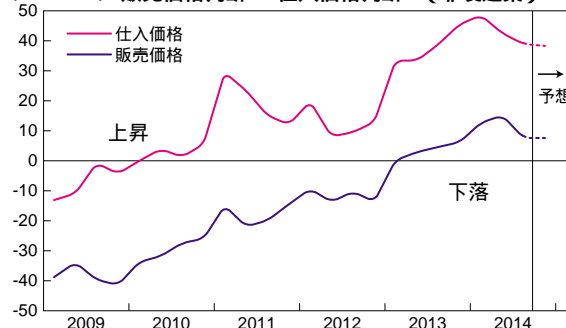
仕入価格判断DIは38.9〔上昇〕。

- ・ 卸売業や小売業のなかには、仕入価格
の上昇分を販売価格に転嫁しきれてい
ないという声もある。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



資金繰り

〔全産業〕

資金繰り判断DI (資金繰りが3カ月前
とくらべ「楽」と答えた企業の割合
から「苦しい」と答えた企業の割合
を差し引いた値)は1.2〔楽〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス1.9
〔苦しい〕。

〔製造業〕

資金繰り判断DIはマイナス0.1〔苦し
い〕。

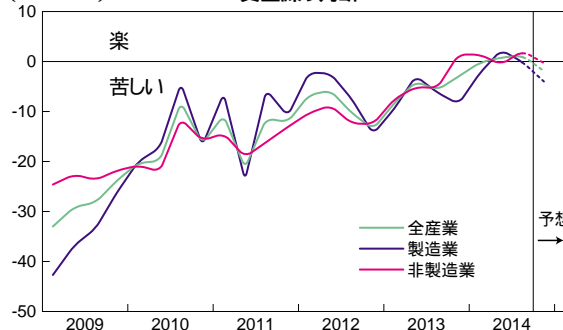
予想資金繰り判断DIはマイナス4.0〔苦しい〕。

〔非製造業〕

資金繰り判断DIは2.1〔楽〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス0.3〔苦しい〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



雇用

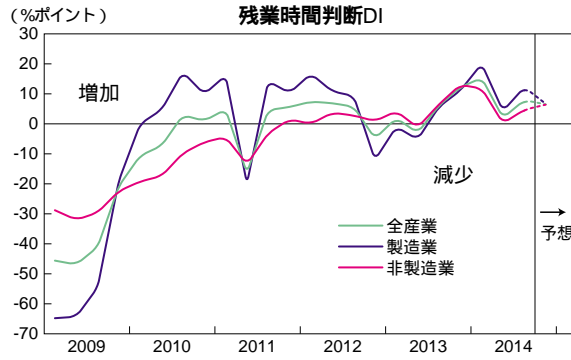
〔全産業〕

残業時間判断DI（残業時間が3ヵ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は7.9〔増加〕。

予想残業時間判断DIは6.5〔増加〕。

人手過不足判断DI（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス28.1〔不足〕となり、人手不足感が広がっている。

予想人手過不足判断DIはマイナス28.1〔不足〕となっている。



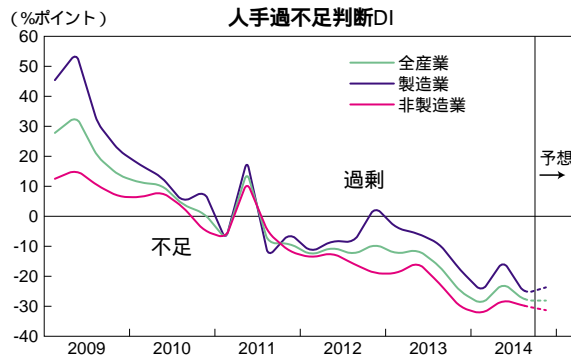
〔製造業〕

残業時間判断DIは12.2〔増加〕。

予想残業時間判断DIは6.7〔増加〕。

人手過不足判断DIはマイナス25.8〔不足〕。

予想人手過不足判断DIはマイナス23.7〔不足〕。



		3ヵ月前と比べた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品	繊維製品 印刷 食料品	金属製品は変わらず
	卸売業 建設業 運輸業	飲食業 不動産業 サービス業	小売業は変わらず

		人手過不足感	
		人手過剰	人手不足
製造業	印刷	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 食料品	繊維製品は過不足感なし
		卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	

〔非製造業〕

残業時間判断DIは4.7〔増加〕。予想残業時間判断DIは6.4〔増加〕。

人手過不足判断DIはマイナス29.9〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス31.3〔不足〕。

- すべての業種が慢性的な人手不足に陥っているが、飲食業や運輸業で深刻。「求人しても問合せが一切ない」といった声もあった。

設備

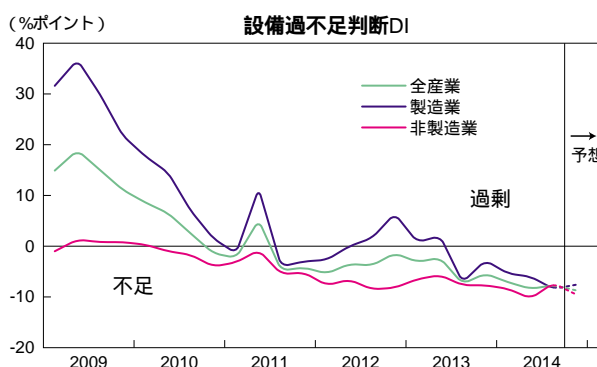
〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス7.7〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス8.7〔不足〕。

7～9月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は30.8%。

10～12月期に設備投資を計画している企業は28.8%。

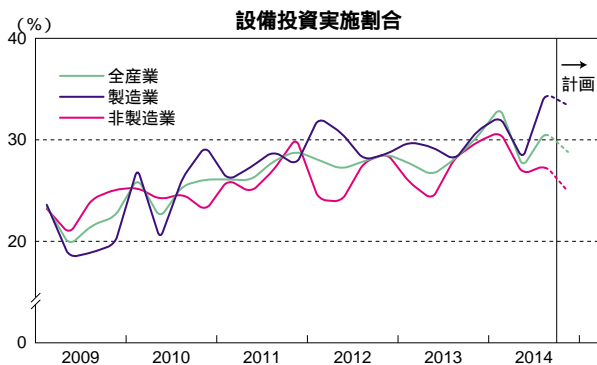


〔製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス8.4〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス7.6〔不足〕。

7～9月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は34.6%。



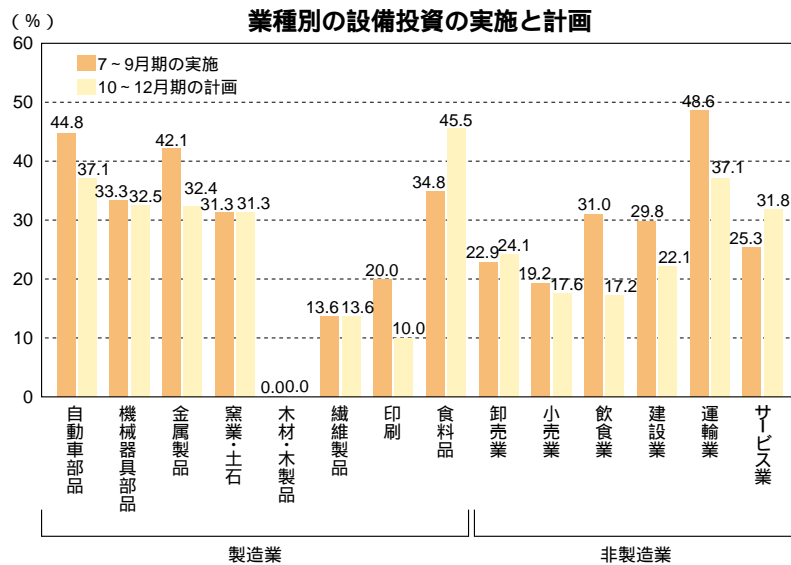
- 内訳としては、機械・設備の新增設49.2%、機械・設備の更改27.3%、車両19.5%、事務機器15.6%などとなっている。
- 設備投資の目的としては、能力増強が38.3%、老朽化に伴う更新が34.4%、合理化・省力化が28.1%などとなった。
- 自動車部品の実施率は44.8%。2008年7～9月期以来の高い水準。
- 10～12月期に設備投資を計画している企業は33.4%。

〔非製造業〕

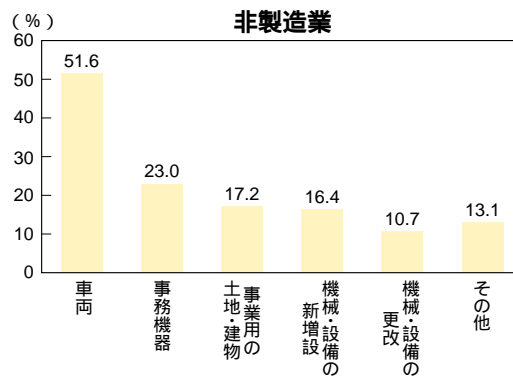
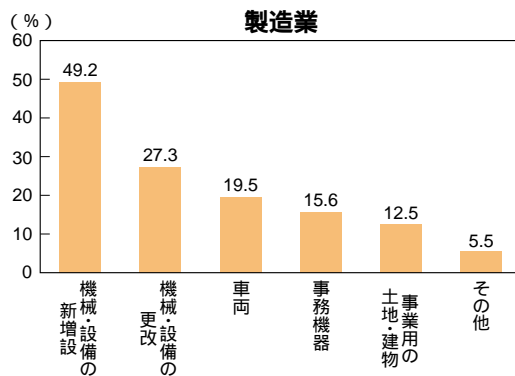
設備過不足判断DIはマイナス7.3〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス9.5〔不足〕。

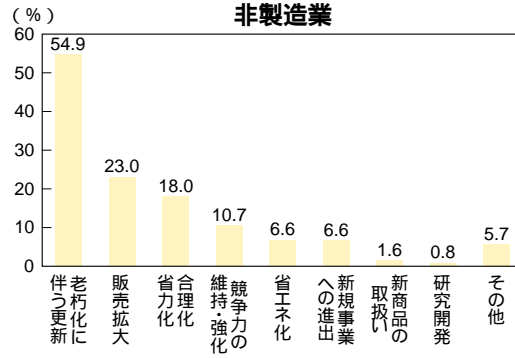
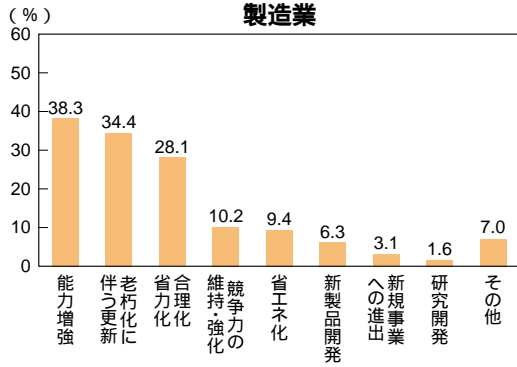
- ・ 7～9月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は27.5%。
- ・ 内訳としては、車両が51.6%、事務機器が23.0%、土地建物17.2%、機械・設備の新增設が16.4%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が54.9%、販売拡大が23.0%、合理化・省力化が18.0%、競争力の維持・強化が10.7%などとなった。
- ・ 10～12月期に**設備投資を計画**している企業は24.9%。



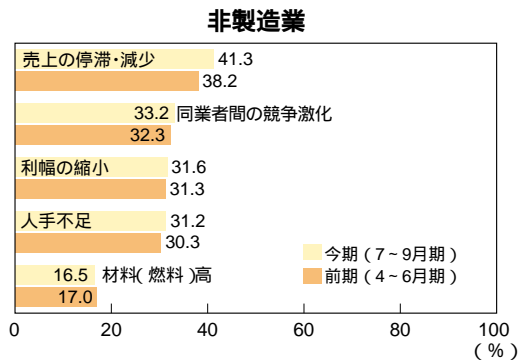
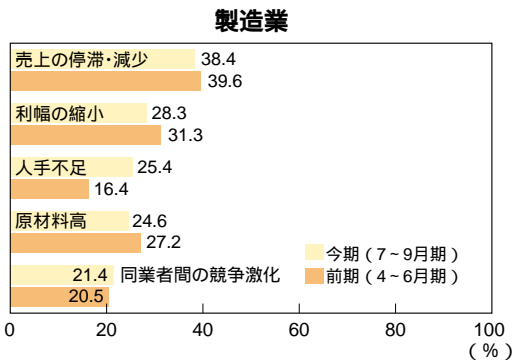
7～9月期の設備投資の内訳



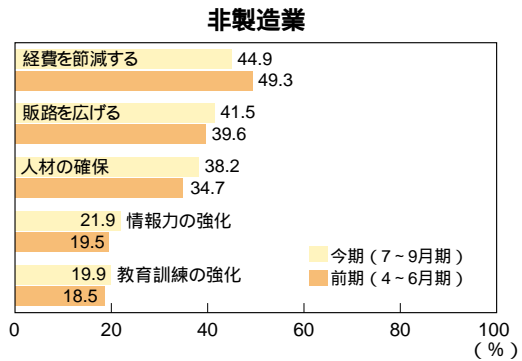
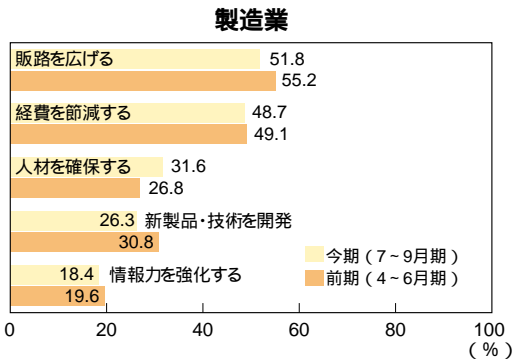
7～9月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



業種別動向

製造業

自動車部品

7～9月期の景況 反動減やわらぎ景況感改善、設備投資は高水準

10～12月期の予想 予想判断DI悪化、新車販売の弱含みなどで

7～9月期の景況

業況判断DIは6.5。4～6月期（6.8）にくらべ改善し、2四半期ぶりのプラスに転じた。前回調査時の予想が0.0だったので、消費増税にともなう駆け込み需要の反動が、想定した以上に和らいだ格好。

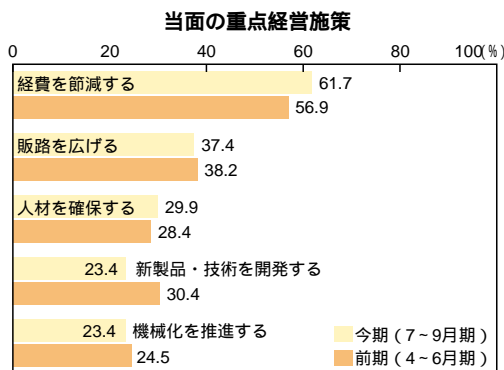
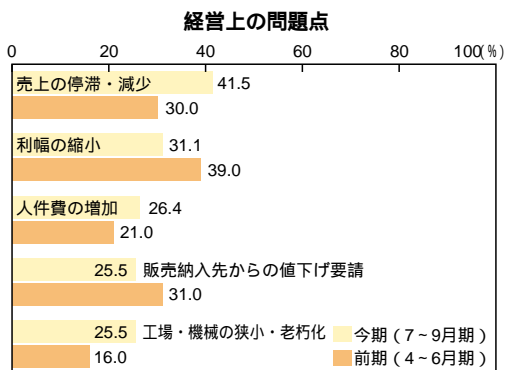
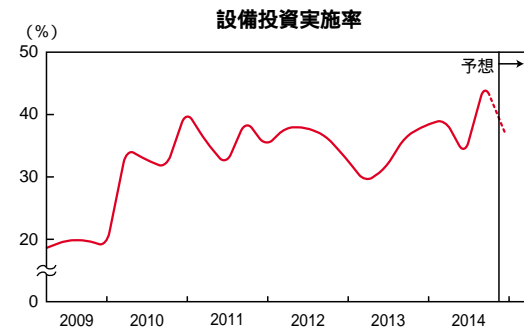
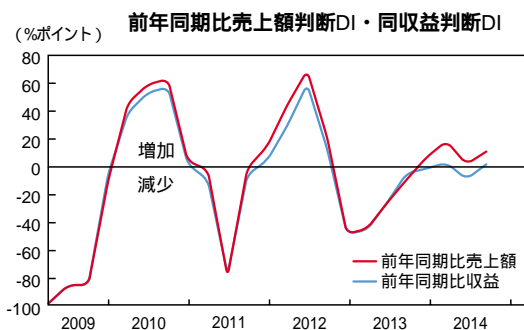
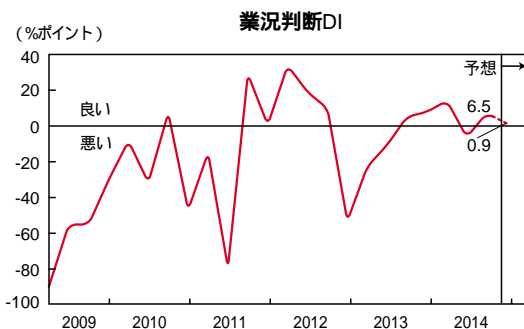
前年同期比売上額判断DIは10.2、同収益判断DIも0.9と、ともに増加に転じている。残業時間も増加、人手不足感も予想以上に広がっている模様。

設備投資の実施率は44.8%。リーマンショック直前の2008年7～9月期（51.7%）以来の高さ。能力増強目的の投資が多い。

10～12月期の予想

予想業況判断DIは0.9。7～9月期にくらべ、悪化する見通し。新車販売の弱含みなどからトヨタ自動車などが10月以降の国内生産計画を引き下げたこともあって、先行き慎重にみる向きが少なくない。

重点経営施策には「経費の節減」をあげた企業が増えている。



7～9月期の景況 4割が「良い」の回答、人手不足感も広がる

10～12月期の予想 プラス維持の予想も、慎重な見方増える

7～9月期の景況

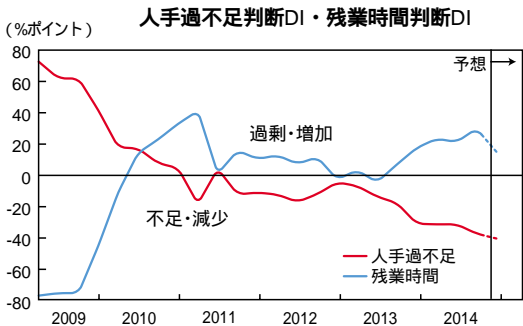
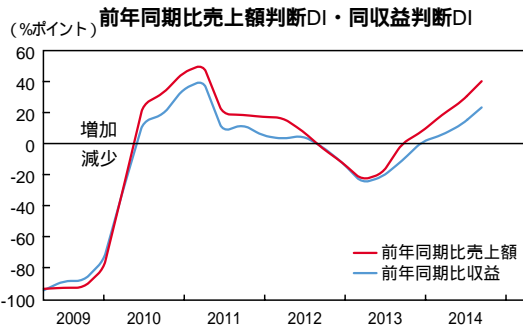
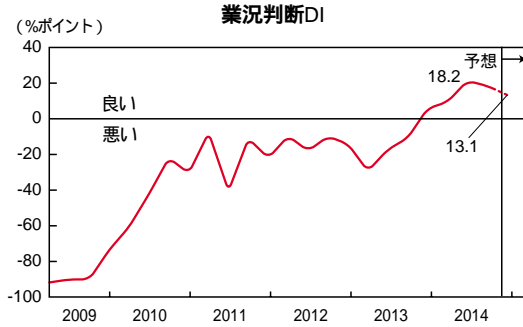
業況判断DIは18.2。4～6月期（21.0）にくらべ、すこし悪化した形となったが、4四半期連続のプラスを維持した。回答企業のおよそ4割が、自社の景況を「良い」としており、機械器具業界は景気回復を実感している企業が比較的多いとみられる。国内外の機械需要の持ち直しが続いているのが背景。

売上や収益も増加基調。前年同期比売上額判断DI・同収益判断DIは、ともに「増加」域での推移が1年続いている。

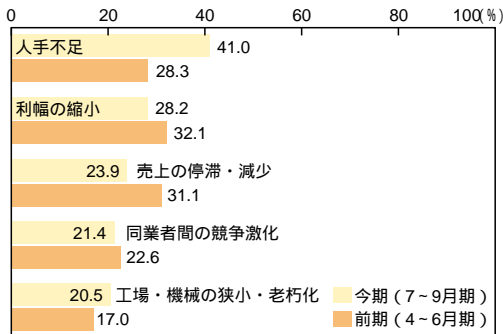
このなかで人手不足感が広がっている。経営上の問題点では「人手不足」を指摘する企業が、また、重点経営施策では「人材の確保」をあげる企業が増えている。

10～12月期の予想

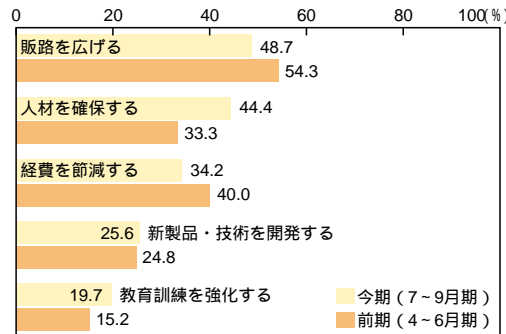
予想業況判断DIは13.1。7～9月期にくらべ、やや悪化する形となったが、プラスを維持する見通し。マインドが大きく崩れることはなさそうである。ただ、売上や収益については、この先さらに伸びていくという見方は後退しつつある。



経営上の問題点



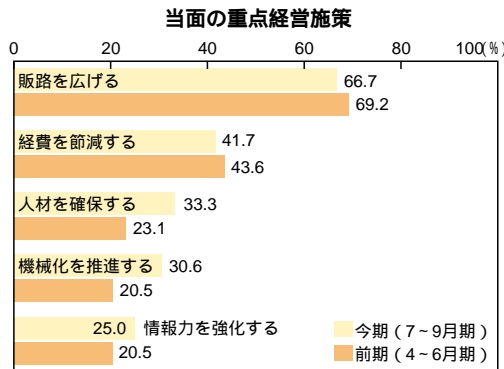
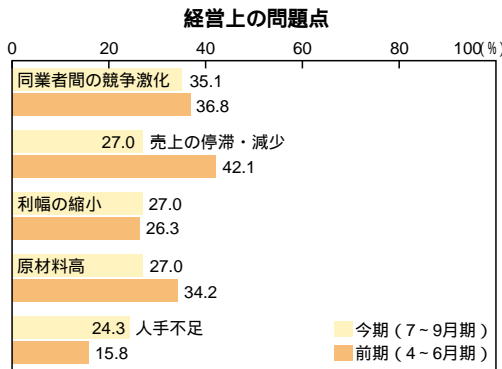
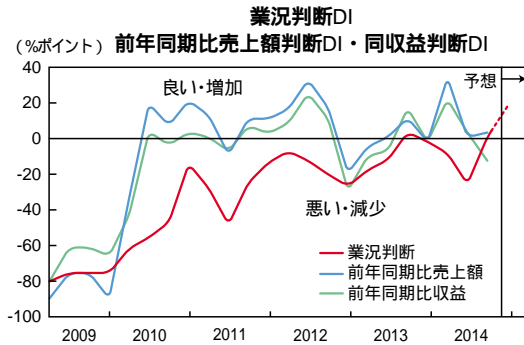
当面の重点経営施策



▶ 【金属製品】

業況判断DIは0.0。4～6月期（26.3）に比べ改善した。改善は1年ぶり。消費増税の駆け込み需要の反動が緩和されている模様。前年同期比売上額が増加する一方、同収益は減少。人手不足感は広がっている。

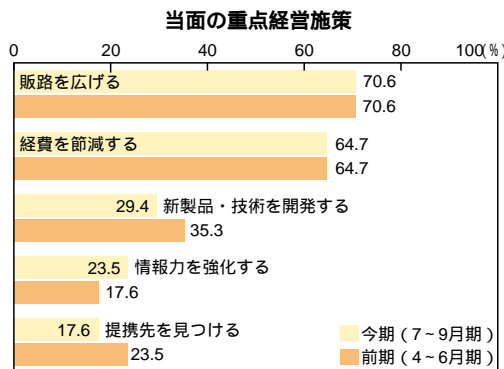
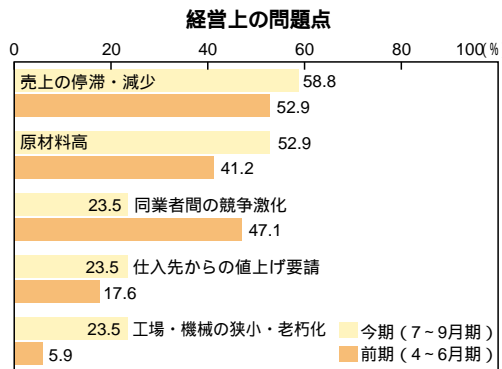
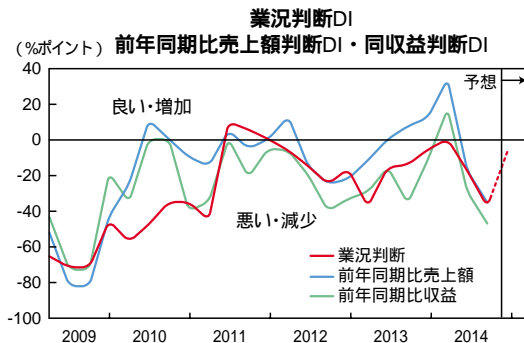
予想業況判断DIは17.1と、大幅に改善する見通し。重点経営施策では「人材の確保」や「機械化の推進」をあげる企業の増加が目立つ。



▶ 【窯業・土石】

業況判断DIは37.5。4～6月期（17.7）に比べ悪化した。悪化は2四半期連続。原材料高などで、総じて収益が減少している。「反動減の影響が続いている」との声もある。経営上の問題点では「原材料高」と「工場・機械の狭小・老朽化」をあげるところが増えている。

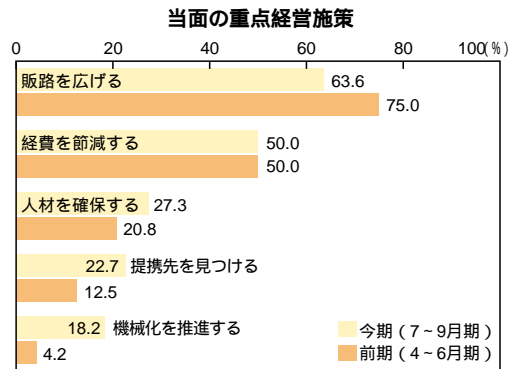
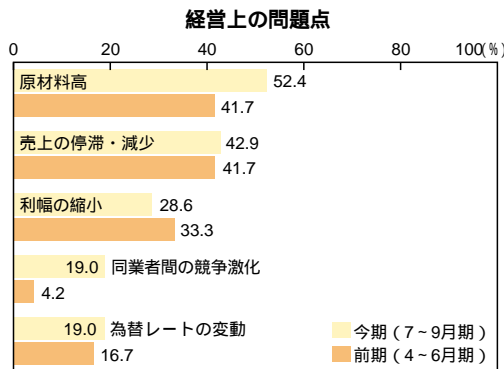
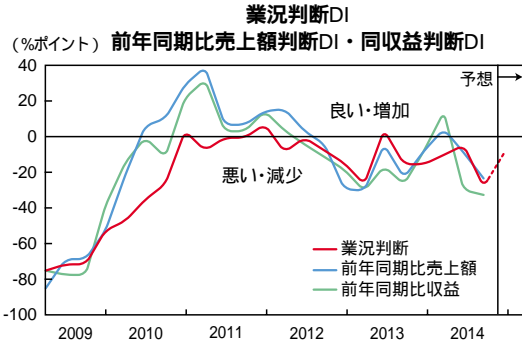
予想業況判断DIは7.2。改善の見通し。



▶ 【繊維製品】

業況判断DIは 27.3となり、4～6月期（ 4.2）にくらべ大幅に悪化した。前年同期比売上判断DIは 22.7〔減少〕、同収益判断DIは 31.9〔減少〕。円安の影響などから原材料価格の高止まりが続いており、減益を余儀なくされている企業も少なくない。

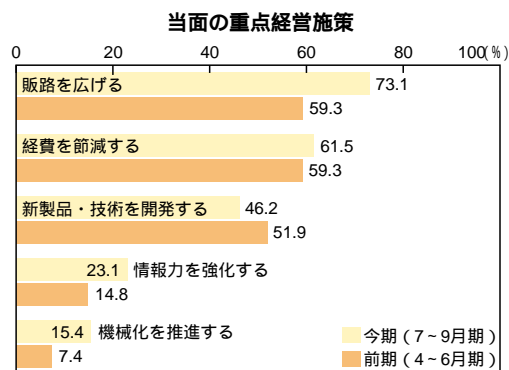
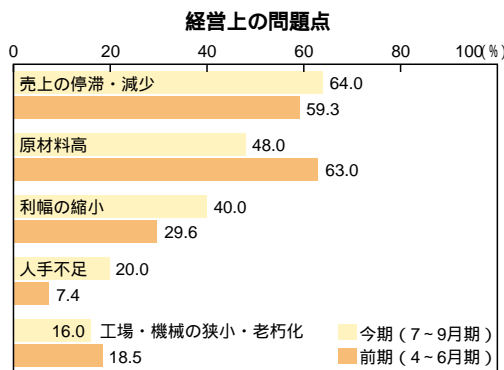
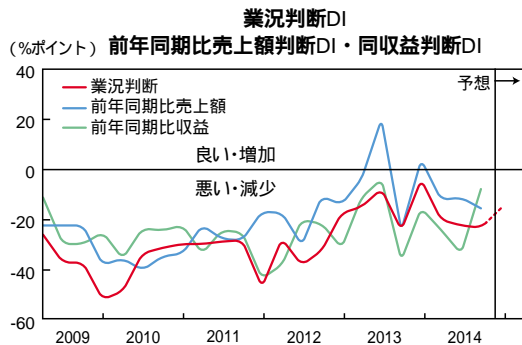
予想業況判断DIは 9.1と、改善する見込み。



▶ 【食料品】

業況判断DIは 23.1。4～6月期（ 22.2）にくらべ、おおむね横ばい。足元の売上額や収益が、依然として上向いておらず、全体として低調感の否めない状態が続いている。経営上の問題点として、半数を超える企業が「売上の停滞・減少」をあげている。

予想業況判断DIは 15.4と、改善の予想。



7～9月期の景況 業況判断DI改善、機械器具卸が牽引

10～12月期の予想 食料・飲料卸や建設材料卸、改善の予想

7～9月期の景況

業況判断DIは 4.2。4～6月期（ 19.5 ）に比べ改善したが、マイナス域を脱するまでには至っていない。

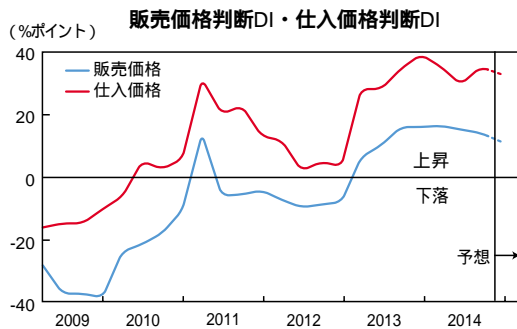
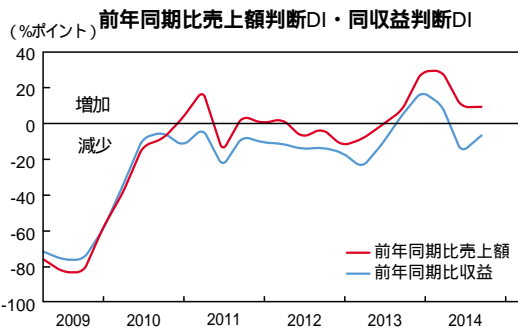
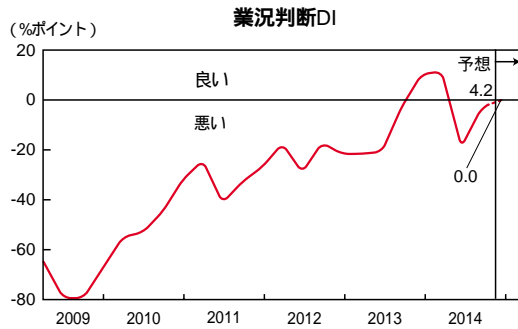
全体を牽引したのは機械器具卸。駆け込み需要の反動から一転、大幅な改善がみられた。機械需要の堅調が主因。

総じて足元の売上額は増加しているが、収益は減少気味。利幅が縮小しつつあることがうかがえる。「仕入価格の上昇分をなかなか転嫁できない」という声も根強く残っている。

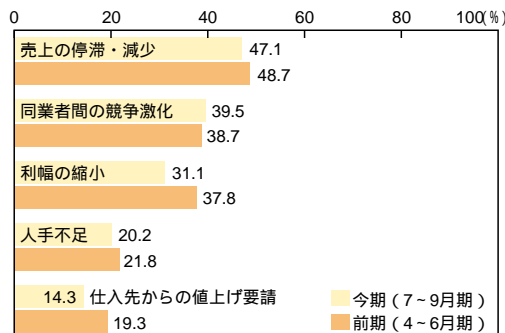
10～12月期の予想

予想業況判断DIは0.0。景況感は改善する見込み。食料・飲料卸や建設材料卸の改善予想が目立つ。農畜産物・水産物卸は回復が遅れているもよう。

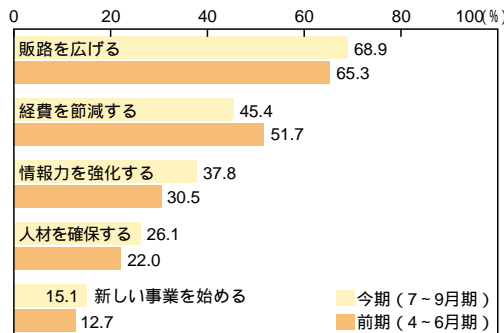
業況判断DI	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月 (予想)
農畜産物・水産物	25.0	29.4	17.7	23.6
食料・飲料	7.7	46.1	9.1	0.0
機械器具	13.1	16.7	27.0	23.1
建設材料	36.4	23.8	9.6	10.0



経営上の問題点



当面の重点経営施策



7～9月期の景況 反動減が想定以上に続き、景況感もたつく

10～12月期の予想 判断DIは悪化へ、減収減益の見通し

7～9月期の景況

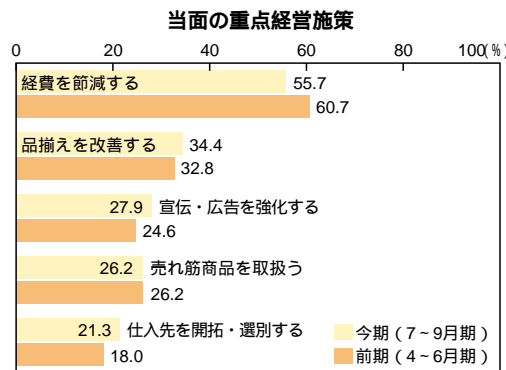
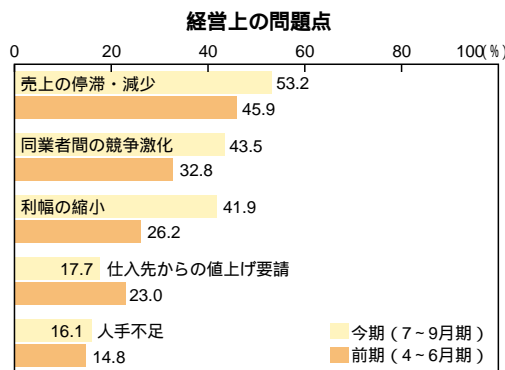
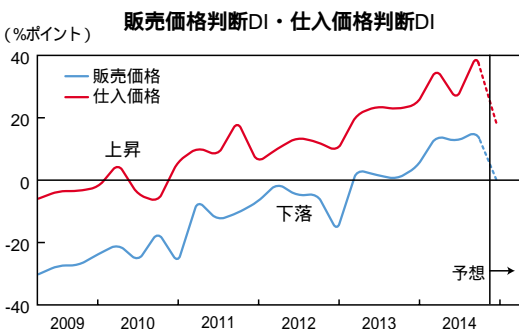
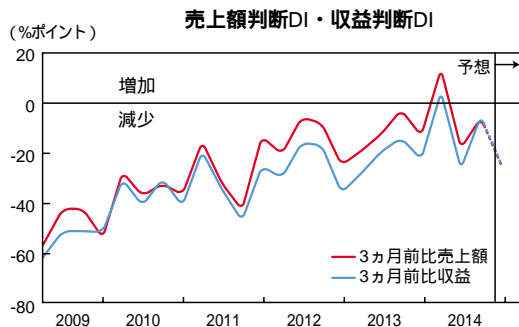
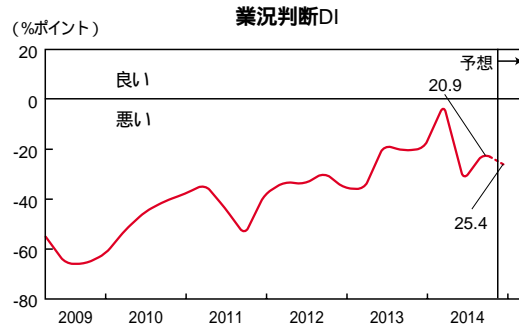
業況判断DIは 20.9。4～6月期（ 31.7）に比べ改善した。とはいえ、依然DIはマイナス域にあって、低調な業況を強いられている小売店が少なくない。

前回調査時の予想DIは 15.8。そこまでDIが改善しなかったのは、駆け込み需要の反動減が想定した以上に続いているのが主因だろうが、仕入価格の値上がり分を転嫁しきれていないことや、この夏の天候不順の影響も加わったとみられる。足元は減収減益。

経営上の問題点をみると、相変わらず「売上の停滞・減少」がトップにあがっているが、「利幅の縮小」のポイントが増えているのも目につく。

10～12月期の予想

予想業況判断DIは 25.4となり、7～9月期に比べ、悪化が予想されている。減収減益も続く見通しで、冴えない景況が続くとみられる。



7～9月期の景況 消費増税の影響ジワリ、長引く水面下の景況
 10～12月期の予想 深刻な人手不足つづく見通し、DIは悪化へ

▶ 7～9月期の景況

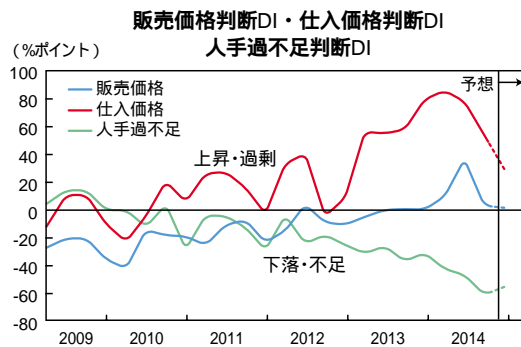
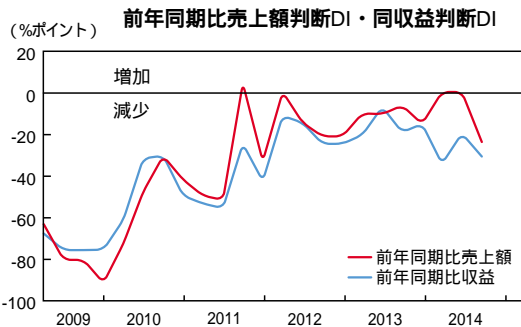
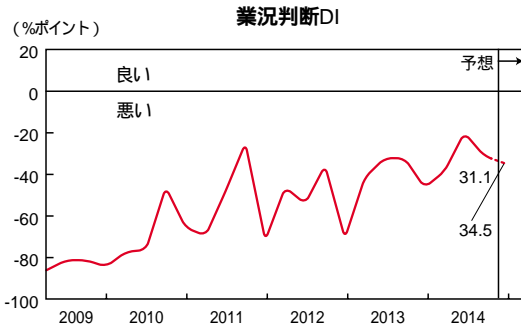
業況判断DIは 31.1。4～6月期（ 20.0 ）
 にくらべ悪化した。悪化は3四半期ぶり。DI
 は依然として水面下にあつて、厳しい業況
 は変わっていない。

足元の動向を示す前年同期比売上額判断
 DIはマイナス、同収益判断DIもマイナス。
 減収減益となっている飲食店が少なくない
 ようである。ここにきて消費増税で外食を
 控える動きが響いてきたのか、「消費増税の
 影響を今になって感じる」という声がある。

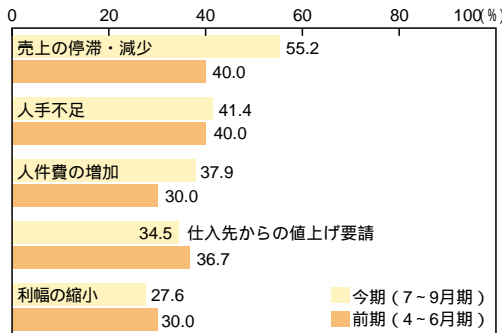
人手不足感は広がっている。人手過不足
 判断DIは 60.8。このマイナス〔不足〕幅
 は、1991年1～3月期（ 62.5 ）以来の大きさ。

▶ 10～12月期の予想

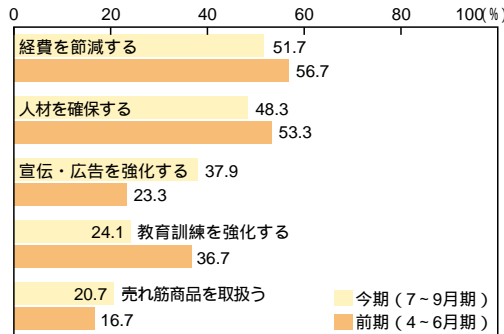
予想業況判断DIは 34.5となり、7～9月
 期にくらべ悪化が予想されている。しばら
 くマインドは好転しそうになく、来年秋に
 予定されている消費税率の再引き上げを早
 くも心配する声もあった。人手不足も解消
 されそうにない。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



7～9月期の景況 DIのプラス7期連続、人手不足と材料高が足枷か
 10～12月期の予想 回復の基調は変わらず、業況判断は改善へ

7～9月期の景況

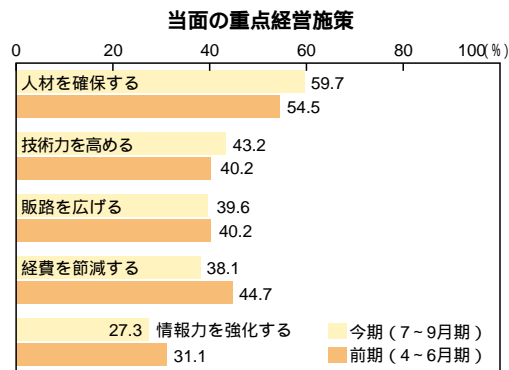
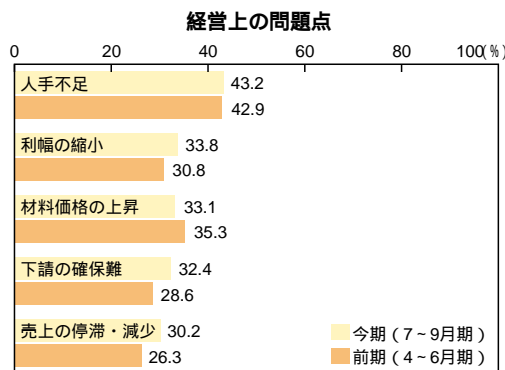
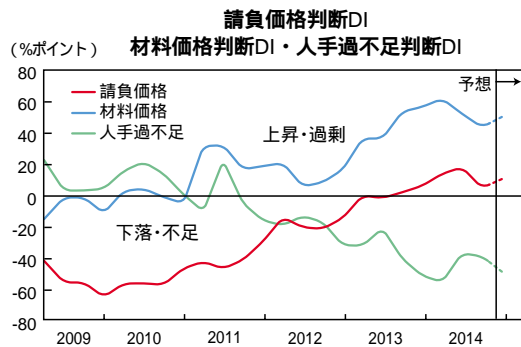
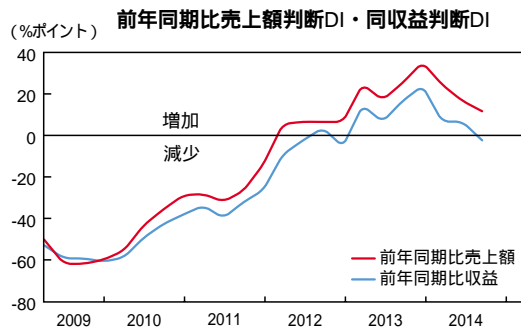
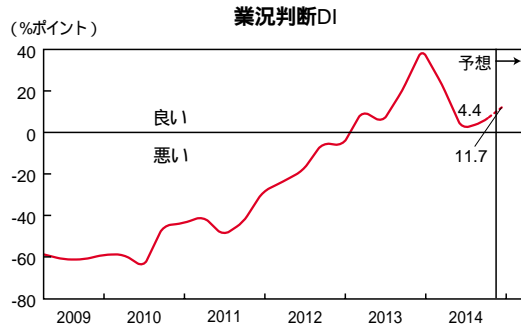
業況判断DIは4.4となり、4～6月期（1.5）にくらべ改善した。プラスは7四半期連続。おおむね景況の回復が続いている。

足元の動向を示す前年同期比売上額判断DIはプラス〔増加〕を維持したが、同収益判断DIはマイナス〔減少〕に陥った。2013年1～3月期からの増益が途切れた恰好。人手不足で人件費が上昇、材料価格の高騰と相まって、利幅縮小を余儀なくされている企業が増えつつあるのではないだろうか。

10～12月期の予想

予想業況判断DIは11.7と、7～9月期にくらべ改善する見通し。全体として、受注量や工事が大きく減ることはなさそうで、回復の基調は変わらないのではないか。

ただし、人手不足と材料高は、この先も収まりそうにない。当面の重点経営施策のトップには「人材の確保」があがっている。



7～9月期の景況 物件の動き鈍く、5期ぶりにDIマイナスへ

10～12月期の予想 見通し横ばい、経営施策に「情報力の強化」

7～9月期の景況

業況判断DIは 5.9となっており、4～6月期(2.9)に比べ悪化した。DIのマイナスは5四半期ぶり。

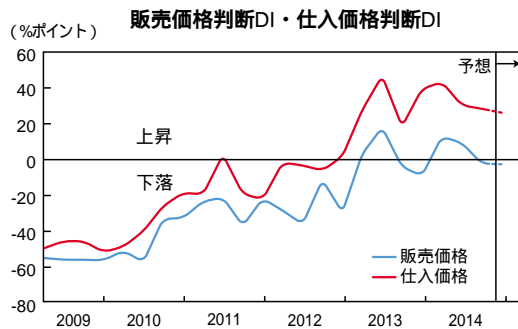
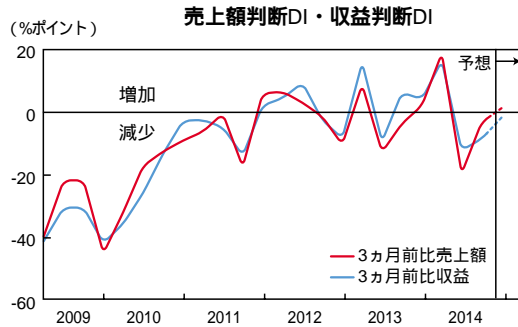
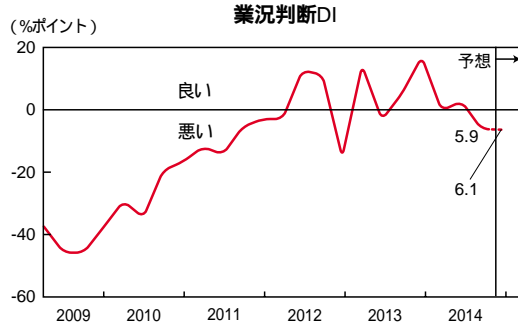
消費増税にともなう駆け込み需要の反動がつづき、物件の動きが鈍っていることなどが響いたとみられる。「中古物件の売買が低調。賃貸住宅の入居率も低調」といった声もある。

足元の売上額や収益も上向いていない。売上額判断(3カ月前比)DIは 3.4(減少)、同収益判断DIは 8.7(減少)となっている。

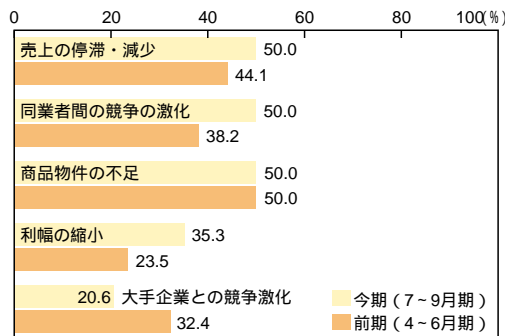
10～12月期の予想

予想業況判断DIは 6.1。7～9月期に対し、ほぼ横ばいで、マインドに変化は見られそうにない。

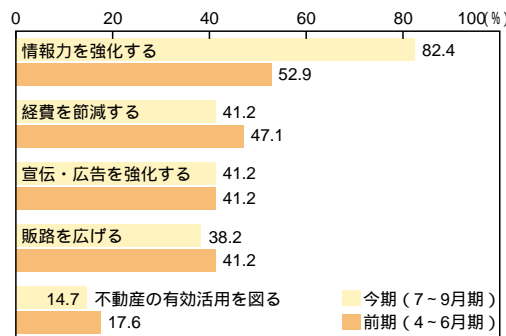
当面の重点経営施策では「情報力の強化」をあげる企業が8割を超えている。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



7～9月期の景況 DIが2期ぶりに浮上、懸念材料は人手不足と燃料高

10～12月期の予想 運賃価格の上昇広がるも、収益は伸び悩む見通し

7～9月期の景況

業況判断DIは11.2となり、4～6月期（16.1）にくらべ改善した。改善は2四半期ぶり、DIは再びプラス域に浮上した。改善幅は27.3ポイント。この幅は全業種で最大。

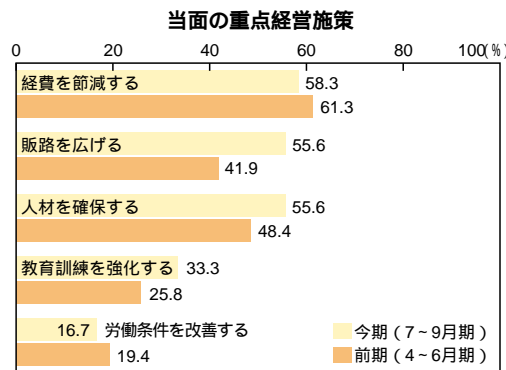
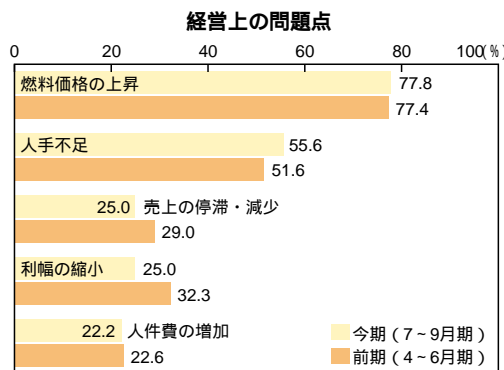
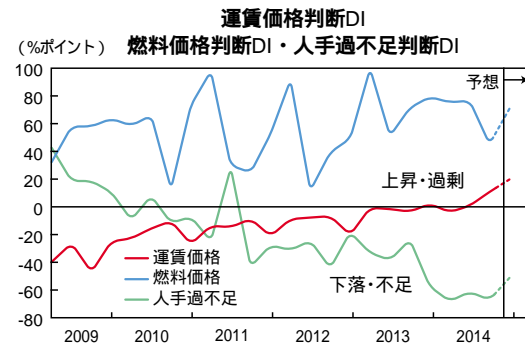
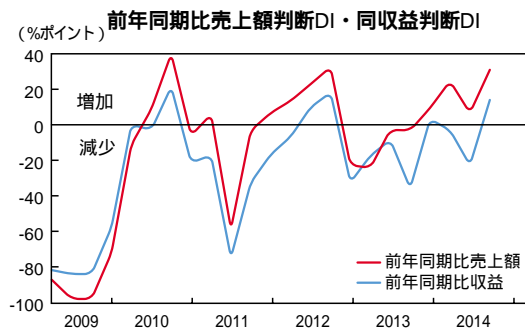
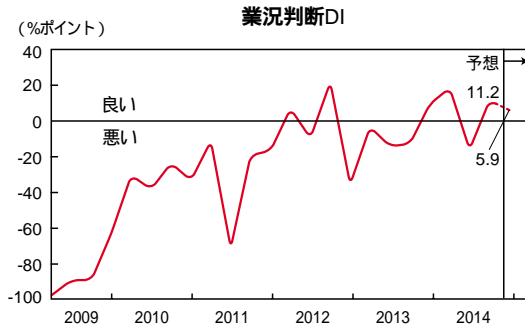
前回調査時の予想（0.0）も上回った。工業部品などのトラック輸送で、駆け込み需要の反動減が想定よりも和らいだことが奏功したとみられる。ただし、タクシーなどは回復の遅れが目立つ。

前年同期比売上額判断DIは30.6、同収益判断は13.8。足元は増収増益の形となっている。

燃料価格の高騰は懸念材料。人手不足感も深刻。「求人しても問合せが一切ない」という声も上がっている。

10～12月期の予想

予想業況判断DIは5.9。7～9月期にくらべ、悪化の見通しだが、プラスは維持しそうである。このところ運賃価格が上昇しつつあるが、燃料価格の高止まりも予想され、収益については先行き慎重にみる向きもある。



7～9月期の景況 23年ぶりの高水準、個人向けが大幅に改善

10～12月期の予想 判断DIはやや悪化する予想も、プラス維持へ

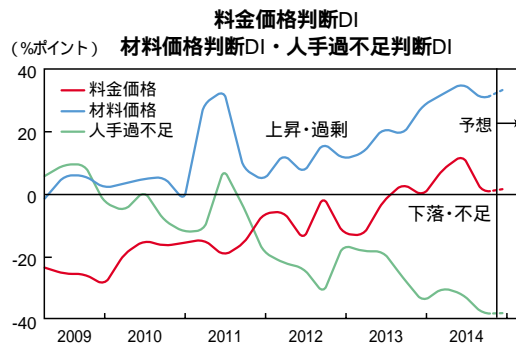
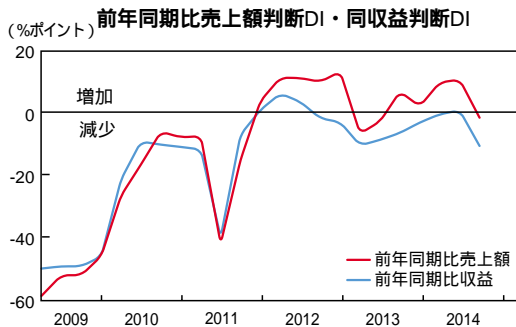
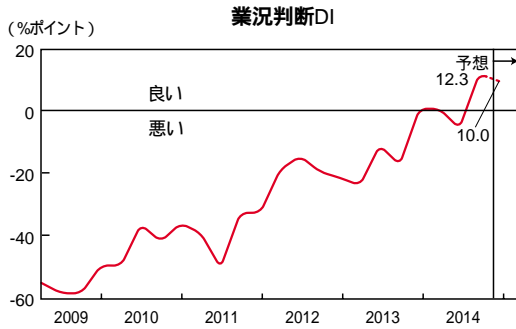
7～9月期の景況

業況判断DIは12.3。4～6月期（ 5.0）に比べ改善し、プラスに転じた。DIの水準としては、1991年4～6月期（13.1）以来、23年ぶりの高さ。法人向けサービスは13.4ポイント改善。これまで遅れていた個人向けサービスは24.6ポイントの大幅改善。

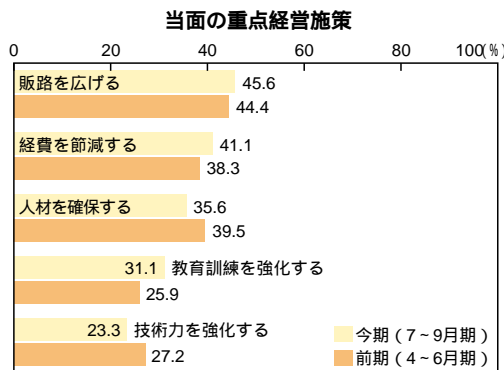
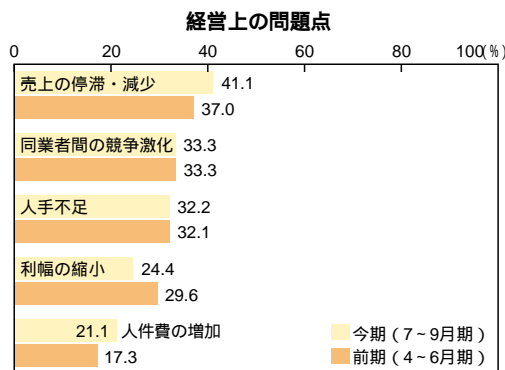
足元の売上額や収益は、やや下向きといったところ、また、人手不足も解消に向ってはいないが、長いあいだ停滞し続けてきたサービス業界のムードは、ここに来て、かなり良くなっている。

10～12月期の予想

予想業況判断DIは10.0。7～9月期に比べ、やや悪化する形となったが、プラスを維持する見通し。



業況判断DI	1～3月	4～6月	7～9月	10～12月 (予想)
法人向けサービス	23.5	7.7	21.1	19.3
個人向けサービス	29.4	27.6	3.0	6.1



お客様から寄せられた声

* 景気動向調査表の通信欄に記載のあった意見をご紹介します。

製造業のお客様

人材不足のため、外国人を雇用した。モノづくりには繊細な作業が必要なのだが、雑な作業をしてしまうので困っている。性格は明るく、人柄もよい。言葉も通じるのだが、日本人のような几帳面さがないので、クレームが増えるばかり。「これぐらいなら、いいでしょ」という気持ち強いのか。(自動車部品)

コストテーブル同意による指名発注という方式で、コストが標準化され、コストダウンの要求がさらに厳しくなっている。(自動車部品)

世界的な景気の先行きに不安。地球温暖化も不安。人間は自然との共存を忘れたのでしょうか。(自動車部品)

現在は好調な車種構成に支えられて順調だが、いつまでもこれが続くとは限らない。足元をかため、驕ることなく着実に歩みたい。(自動車部品)

大手自動車メーカーからの値下げ要求が厳しくなっている。(自動車部品)

景気減速は当然の結果だ。労働者の大

半が働く中小企業。その中小企業で賃金が上がらなければ、もっと落ち込みが大きくなると思う。いまの政治の方向では無理だろう。(自動車部品)

リコールのダメージが大きかったので、下請けにも響いている。(自動車部品)

仕事の量は増加しているが、人手が不足している。(自動車部品)

最近、得意先(お客さま)が系列を外れた企業への営業活動をしている。弱肉強食とは言わないが、部品メーカー間の営業力や技術力によって、仕事の流れが変化している。(自動車部品)

消費税が10パーセントになったときが心配。(油圧空圧機器)

予想どおり、アベノミクスは大手企業が恩恵を受けているだけ。中小零細企業はまったくおもしろくない。年商5億円以下の企業が圧倒的に多いのだから、法人税制を含め、もっとそちらへ目を向けた改革をすべき。(金型)

同業他社の廃業が多く、その分の仕事が増えている。(casting)

消費税率引き上げの反動が、いまだに続いている。(配合粘土)

危険度の高い特殊機械の保守を主力業務としているが、顧客の安全に対する認識は低く、価格だけで判断されることが多い。人命にかかわる部分を重要視するようになることを期待する。(クレーン・ホイスト)

消費税率アップ、燃料費上昇など、一部にインフレ傾向がみられるが、内需産業における川下分野で、価格を引き上げたり、賃金を上げたりすることは困難な状況。業界を問わず、利益独占型企業が多くなっているようで大変にさびしい。経済活動の優先順位が、人、物、金の順になって、はじめて豊かさを実感できるのではないか。(溶接金網)

リーマンショック以降、おおむね順調に回復してきたが、このところ海外情勢が不安定で、いつ、また不況の波に襲われるかが心配。(製缶・板金)

小手先の景気回復策ではダメで、国民全体を巻き込んだ長期的な政策が必要。(工業用ゴム製品)

自動車の内装にレザー製品を使わなくなっている。燃費を良くするためにプラスチック製品を使うようになっていく。大手は増収らしいが、当社には心配もない。(レザー基布)

超円高のときに日本の多くの製造業が海外へシフトした。シフトを大方終えた時点でのアベノミクスは、なんらプラスにならない。とくに中小企業はそ

れが顕著である。最近、人手不足といわれているが、要するにミスマッチングだ。働く側の要望が多すぎる。「石の上にも3年」というのではないか。(工業用資材)

原材料価格が上昇しているが、転嫁できない。(段ボール)

東欧、中東、中国などの政治・経済に不安。とくに中国の経済不安で投資意欲に陰りがみられる。(工業用炉)

材料の非鉄金属が高騰。転嫁できていない。毎月5パーセントアップしている。(アルミ鋳物)

今期も公共事業予算の増加で、河川工事用のフェルトタイプの資材の受注が多く見込まれるものの、燃料や電力の値上がりで収益を圧迫している。(土木資材)

開発内容を見直して、人手を省力化しつつ、売上増加を旨とする。(システム開発)

円安で、原材料、資材、エネルギーなどが高騰。困っている。政府がしっかりとした対策を実行しないと、中小零細企業は非常に厳しい。(菓子)

卸売業のお客様

仕入価格が昨年に引き続き上がっている。なかなか販売価格に転嫁できずに苦しい状況にある。(包装資材)

販売先である小売業が良くなると、どうにもならない。(折箱)

消費増税の反動が予想以上に大きい。(家具)

8月は天候不順で、全体として品不足。価格も高騰。だが、当社には契約農家がたくさんあり、例年以上に商品を入荷できた。仲卸やスーパーなどからの受注も多く集まった。(青果物)

小売業・飲食業のお客様

消費増税の影響(駆け込み需要の反動)で、売上が伸び悩んでいる。(自動車販売)

消費増税の負担が大きい。10パーセントになれば、さらに厳しさが増すだろう。(事務機器)

景気回復や消費拡大をまったく感じない。(調理品・酒類)

雨天が多く、飲料の動きが鈍い。(スーパー)

「景気は上昇局面にある」とは、どの

国の経済を見て言っているのか? 少なくとも、周りに景気の良い会社は見あたらない。ほんとうの街の声を聞く努力が必要なのではないか。強引に消費税率を引き上げてほしくない。前回とくらべようもないくらいの影響がでると思う。(イタリア料理)

消費税率アップの影響が、いまになってつくづく感じられるようになった。(和食・寿司)

建設業・不動産業のお客様

中古物件の売買が低調。賃貸住宅の入居率も低調。(マンション管理)

受注があるのに人手不足で、すべての現場が管理できない。下請け業者に管理を任せられた結果、クレームが発生。(土

木建設)

中小企業以下にアベノミクスの効果はない。大企業にとどまっている。(土木建築工事)

先行きが不透明。(建築一式)

人材不足が深刻な建設業界。失った人材（技術者）は、すぐには戻らない。（土木建設）

人件費と材料費の高騰がどこまで進むか。その不安感が非常に強い。（不動産業）

運輸業・サービス業のお客様

人手不足が深刻。求人しても問い合わせが一切ない。（運送業）

官公庁の職員の能力不足で迅速な対応をしてもらえず、民間企業の活動や市民の生活に悪影響を及ぼしている。法や規制の本質を理解せず、字面だけで結論を出そうとするからだ。（測量）

旅行やクルーズといったテレビ番組が業況に好影響を及ぼしている。（旅行業）

天候不順で集客力が低下。（ゴルフ場）